

社会技術研究開発事業  
平成20年度研究開発実施報告書

研究開発プログラム「犯罪からの子どもの安全」

研究開発プロジェクト名

「系統的な『防犯学習教材』研究開発・実践プロジェクト」

研究代表者 坂元 昂  
(社団法人 日本教育工学会 会長 )

## 1. 研究開発プロジェクト名

「系統的な『防犯学習教材』研究開発・実践プロジェクト」

## 2. 研究開発実施の要約

### ①研究開発目標

当該年度においては、子どもに対する防犯教育の現状をより明確に把握するとともに、子どもたちの防犯力を向上させる防犯指導を実践する防犯リーダー養成に必要な要素について、より具体的に調査分析を実施。これを基に規準・基準表Ver.1を完成させ、具体的な教材開発に着手することを目標とした。これに伴い、PDCAサイクルを実際に始動させる調査対象地域の折衝を進め、正式に地域の承諾を得る。

### ②実施項目

- ・PDCAサイクルを始動させる調査対象地域の折衝および地域説明会の実施
- ・防犯リーダーの防犯指導力（及び防犯力）規準・基準表Ver.1の作成
- ・防犯リーダーの防犯指導力（及び防犯力）育成のための研修用教材の開発
- ・防犯リーダーの指導力育成カリキュラムVer.1の作成
- ・多次的防犯指導支援システムのデータベースの設計
- ・防犯指導相談支援システムの設計及び試行
- ・防犯指導効果調査Webシステムの設計及び試行

### ③実施内容

- ・防犯リーダー及び保護者等に対するアンケート調査（Web&手書き）の実施
- ・防犯活動に関わる方々を対象とした座談会の実施
- ・上の調査結果に基づいた、多次的防犯指導支援システムのデータベースの設計
- ・多次的防犯指導支援システムのデータベースにおけるサンプルデータの作成
- ・防犯リーダーの防犯指導力（及び防犯力）規準・基準表Ver.1の作成
- ・防犯リーダーの防犯指導力（及び防犯力）育成のためのテキスト試作版及びビデオ教材案の作成
- ・足立区・港区・広島市における地域折衝、地域説明会、座談会の実施
- ・京都市立藤城小学校におけるトライアウト研修会の実施

### ④主な結果

東京都足立区（西新井第一小学校）・港区（南山小学校）・広島県広島市西区（南観音小学校）の各校区で活動している防犯ボランティアの協力により、上記3地域を正式な調査対象地域として決定することができた。また、京都市立藤城小学校におけるトライアウト研修会では、試作版テキストを使った講義や防犯指導相談支援システム及び防犯指導効果調査Webシステムの試行を実施し、様々な課題を明確にした。この結果を基に、平成21年度半ばに予定している足立区・港区・広島市における研修会実施に向けて、教材や各種システム等の更なる改善を行っていく。

また、防犯リーダー及び保護者等に対する調査および座談会の結果により、子どもの防犯に関連する様々な主体の種類や役割、地域特性等に関する有用なデータを得ることができたため、これらを参考に多次的防犯指導支援システムの潜在的ユーザと利用目的等を分析し、データベースの設計およびサンプルデータの作成を行った。

### 3. 研究開発実施の具体的内容

#### (1) 研究開発目標

本プロジェクトの最終目標は、以下の3つのシステムの確立である。

「防犯リーダーの防犯指導力育成システム」

「防犯コーディネータの防犯リーダー指導力育成システム」

「防犯指導支援システム」（「Web情報検索システム」と「防犯指導相談支援システム」を最終的に「多次的防犯指導支援システム」に統合）

上記の目標に向かい、平成19年度は、本プロジェクトの意義を確認するための基礎情報収集とその分類・分析を行い、それらを基に、上記の3システムのイメージ案を作成した。

平成20年度においては、さらなる調査を重ね、子どもに対する防犯教育の現状をより明確に把握するとともに、子どもたちの防犯力を向上させる防犯指導を実践する防犯リーダーの養成に必要な要素について、より具体的な調査分析を基に規準・基準表Ver.1を完成させる。並行して具体的な教材開発に着手することを目標とした。これに伴い、PDCAサイクルを実際に始動させる調査対象地域との折衝を進め、正式な調査対象地域として地域の承諾を得る。

#### (2) 実施方法・実施内容

下記に各項目に分けて具体的に記述する。

##### ①防犯活動等の訪問調査の実施

防犯リーダー指導力規準表・基準表の作成に必要な資料を収集するため、警察署の安全課をはじめ、地域の防犯ボランティア活動の団体、学校地区協議会の安全関係のグループ、教育委員会、小学校などを訪問し、聞き取り調査を行った。また、それぞれの訪問先で研修用の教材やパンフレット、ポスター、ステッカーなどの収集、およびインタビュー取材（後述）を実施した。主な調査訪問先は次のとおり。

- |                        |                   |
|------------------------|-------------------|
| ①広島県警察本部 生活安全部         | ②沖縄県警察本部 生活安全部    |
| ③京都市伏見区墨染交番            | ④広島県広島市少年パトロール隊   |
| ⑤熊本県熊本市 オバパト隊          | ⑥NPO法人エクスプローラー北海道 |
| ⑦石垣島シルバーモーニングサービス      | ⑧京都府京都市立藤城小学校     |
| ⑨愛知県名古屋市長久寺立本郷小学校      | ⑩兵庫県丹波市立和田小学校     |
| ⑪兵庫県尼崎市立大庄小学校          | ⑫東京都新宿区落合第二地区協議会  |
| ⑬広島県広島市 西区観音学区福祉協議会    |                   |
| ⑭熊本県教育庁 教育政策課 広報・情報班   |                   |
| ⑮北海道苫小牧教育委員会           |                   |
| ⑯エンパワーメント・センター（兵庫県西宮市） |                   |
| ⑰広島大学大学院社会科学部研究科       |                   |

## ②訪問調査等でのインタビュー調査の実施

訪問先での調査内容を記録するため、その地域や団体などで活動されている方に事前に承諾をいただき、インタビュー内容をビデオに記録した。この内容をテキストに起こし、それらを分析することで、後述の規準表の項目に反映させた。また、ビデオ内容を編集し、研修で利用する教材とすることも目的とした。主なインタビュー相手とその内容の項目（「 」内）は次のとおり。

- ①京都府京都市立藤城小学校 学校長 大畑真知子先生
  - ・平成20年6月27日 京都市立藤城小学校にて
  - 「学校での防犯対策」「学校からの防犯グッズ」「学校と地域ボランティア」
- ②京都府京都市立藤城小学校 学校運営協議会会長 高橋猛様
  - ・平成20年6月27日 京都市立藤城小学校にて
  - 「学校運営協議会について」
- ③京都府京都市立藤城小学校 学校運営協議会副会長 松井順子様
  - ・平成20年6月27日 京都市立藤城小学校にて
  - 「安全環境部会について」「情報部会について」
- ④京都府京都市立藤城小学校 安全環境部会会長 出口常太郎様
  - ・平成20年6月27日 京都市立藤城小学校にて
  - 「防犯パトロールについて」
  - ・平成20年10月31日 京都市立藤城小学校にて
  - 「防犯パトロール結成の経緯」「防犯パトロール実施の手順」
  - 「防犯パトロールで得られる効果」「防犯活動に必要な環境づくり」
- ⑤京都府京都市立藤城小学校 安全環境部会副会長 塩見隆己様
  - ・平成20年6月27日 京都市立藤城小学校にて
  - 「子ども110番の家について」
  - ・平成20年10月31日 京都市立藤城小学校にて
  - 「子ども110番の家の理想的な条件」「子ども110番の家での対応」
  - 「子ども110番の家の課題」「防犯パトロール結成の経緯」
- ⑥広島県広島市西区観音学区福祉協議会会長 橋川徹様ほか
  - ・平成20年7月19日 広島市青少年センターにて
  - 「ボランティア活動を広げる取り組み」「防犯パトロールについて」
- ⑦広島県広島市少年パトロール隊 渡利翼さん
  - ・平成20年8月18日 広島市青少年センターにて
  - 「子どもたちとの防犯活動」「非行防止と若年層の参加」
- ⑧広島大学大学院社会科学研究科 吉中信人教授
  - ・平成20年8月19日 広島大学東広島キャンパスにて
  - 「安全な地域社会の形成」「防犯ボランティア活動の維持」
  - 「子どもと防犯グッズ」「防犯活動と法の整備」
- ⑨熊本県教育庁 教育政策課 広報・情報班 指導主事 戸田俊文先生
  - ・平成20年9月3日 熊本県庁にて
  - 「携帯電話とネットいじめ」「情報モラル」「プロフとブログ」
  - 「ネットトラブルに対する今後の取り組み」
- ⑩熊本県熊本市 オバパト隊長 下川邦子さん

- ・平成20年9月5日 オバパト隊本部にて
  - 「地域からの信頼とそのリスク」「活動の維持」
  - 「それぞれの知識・経験を生かす」「学校との協力」
  - 「防犯パトロールとインターネット上の防犯」
- ⑪エンパワーメント・センター主宰 森田ゆり様
  - ・平成20年10月30日 エンパワーメント・センターにて
    - 「防犯リーダーに必要な資質」「子どもとのコミュニケーション」
    - 「防犯パトロールの弊害」「不審者対策としての路上パトロール」
    - 「子どもを犯罪から守るためにできる二つのこと」
    - 「学校への警備員の配置について」「防犯カメラの特性」
    - 「ハードがもたらすデメリット」「防犯ブザーのデメリット」
    - 「あいさつ運動の弊害」「お腹の中の防犯ブザー」
    - 「CAPプログラムについて」「ペドファイルについて」など
- ⑫愛知県名古屋市長 片貝 洋司先生
  - ・平成20年12月18日 名古屋市立本郷小学校にて
    - 「児童への防犯指導」「地域との連携」「学校での防犯対策」
    - 「携帯電話・インターネットへの対策」
- ⑬石垣島シルバーモーニングサービス代表 石垣三夫様
  - ・平成21年1月9日 石垣市健康福祉センター
    - 「ボランティア団体の結成」「継続の工夫」「あいさつ運動」
    - 「あいさつ運動の効果」「今後の活動」
- ⑭兵庫県丹波市立和田小学校長 畑義一先生
  - ・平成21年2月27日 丹波市立和田小学校にて
    - 「学校からの児童への安全指導の内容について」
    - 「学校での防犯対策について」「学校の設備、施設」
    - 「地域との連携について」「セーフティーたんば号について」
- ⑮兵庫県丹波市立和田小学校 PTA会長 徳岡 泰様
  - ・平成21年2月27日 丹波市立和田小学校にて
    - 「PTAで行っている子どもの安全指導、防犯対策について」
    - 「地域、学校との連携について」
    - 「保護者に対して子どもの防犯に関する呼びかけについて」
    - 「携帯電話を使った連絡網や、家庭での子どもへの指導について」
- ⑯兵庫県尼崎市立大庄小学校長 村尾典雄先生
  - ・平成20年3月6日 尼崎市立大庄小学校にて
    - 「地域のボランティアとの連携について」「後継者の育成について」
    - 「学校からの児童への安全指導の内容について」
    - 「学校での防犯対策について」
    - 「地域の特性や環境を考慮した安全指導や防犯対策について」
- ⑰NPO法人エクスプローラー北海道代表 佐藤一美様
  - ・平成20年3月11日 グランドプリンスホテルニュー王子会議室にて
    - 「NPO法人エクスプローラー北海道について」「地域の特性や環境について」
    - 「地域安全マップについて」「ウォーキングバスについて」

### **③研修用サンプルビデオの制作**

防犯リーダーやコーディネータに該当する人材を対象とした聞き取り調査や、全国各地の自主防犯ボランティアの活動の様子や防犯関連の専門家へのインタビュー取材などを実施し、「試行版防犯リーダーテキスト関連ビデオ」として、50本のビデオにまとめた。来期も引き続き取材とビデオの開発を続ける。

さらに、研修テキストで利用する研修用のビデオ5本を作成した。ここでは、防犯リーダーがボランティアなどの方々を指導する上で必要となる基本的な考え方や知識、身につけておくべき技能などについて3～5分のビデオ内容にまとめた。

- ①五分でわかる子どもの安全
- ②どこが安全、どこが危険
- ③広がるネット犯罪
- ④家の中でも気を付けて
- ⑤登下校の子どもを守る

### **④防犯リーダーの防犯指導力（及び防犯力）規準・基準表Ver.1の作成**

防犯リーダーやコーディネータに該当する人材を対象とした聞き取り調査等で得た文書内容をデジタル化し、「文書評価分析システム」等の分析用ソフトウェアを用い、防犯指導力の育成に必要なキーポイント等を抽出し指導力を整理。また、各Gの協力の元、ワークショップを実施して具体的な防犯リーダーの防犯指導力の項目の洗い出しを行った。これらを基に「防犯リーダーの防犯指導力（及び防犯力）規準・基準表Ver.1」を作成し大項目6項目と中項目6項目に整理した。

### **⑤防犯リーダーの防犯指導力（及び防犯力）育成のためのテキスト試作版の作成**

防犯リーダーの防犯指導力（及び防犯力）規準・基準表Ver.1を基に、防犯リーダーの防犯指導力（及び防犯力）育成のためのテキスト試作版を作成した。今回の試作版に記載した研修項目は次のとおり。

1. あいさつ運動の効果と留意点
2. こんな子が狙われている
3. 防犯ブザーの効果と気をつけること
4. 登下校の子どもを守る
5. 家の中でも気を付けて
6. どこが安全？ どこが危険？
7. 地域安全マップ
8. 学校での防犯教育
9. 出会い系サイトで子どもが巻き込まれる
10. 連携して取り組もう
11. 防犯パトロールの進め方
12. 子ども110番の家
13. 少年団も頑張っている
14. 地域の組織づくりと活動の推進

15. みんなでできることから始めよう
16. 地域のことをみんなで共有しよう
17. 広がるネット犯罪

#### ⑥『子どもを取り巻く危険』に関するアンケート調査

小学生の保護者たちが、子どもを取り巻く危険について、どのような意識を持っているのか、また、意識と現実のギャップを知るために、実際にはどのような事故や事件が起きているかについても聞いた。結果、子どもを危険から守るために必要な情報や対策が何であるかを考えるための素材を得ることができた。

- ・実施期間 平成20年10月6日～平成20年10月19日
- ・実施方法 インターネット上におけるWebアンケート
- ・実施対象 小学生の保護者
- ・有効回答件数 616件
- ・主な設問内容
  - ・近年のマスコミ報道の中「他人事ではない」と感じた事件について
  - ・日常的に危険を感じている場所の状況やその理由
  - ・実際に身近で起きた事件について 等。
- ・結果は、多次元防犯指導支援システムにおける子ども犯罪WBSデータベースに反映済み

#### ⑦『地域で危険を感じる場所』に関するアンケート調査

犯罪が発生する可能性が高い場所を一般論として捉えるだけでなく、より具体的な地域の危険な場所の事例を広く収集することで、様々な地域の特性に応じたデータベースを構築できると考え、本調査を実施した。

- ・実施期間 平成21年1月19日～平成21年1月31日
- ・実施方法 インターネット上におけるWebアンケート
- ・実施対象 年齢性別不問
- ・有効回答件数 439件
- ・主な設問内容
- ・自宅付近で「子どもが犯罪被害に遭いそうで心配な場所」とその理由をできるかぎり具体的に。
- ・結果は、多次元防犯指導支援システムにおける子ども犯罪WBSデータベースに反映済み

#### ⑧防犯リーダー・保育士・PTAを対象としたアンケート調査

平成19年度に実施した防犯ボランティア向けのWebアンケート調査において、防犯ボランティアは高齢者が多いため、インターネットを利用できる方が少なく、回答を多く集めることができなかった。これを踏まえ、平成20年度においては、子どもの危険回避研究所所長・横矢真理が講師として行政等に招かれた「防犯リーダー向け講座」等において、紙のアンケートを配布し、その場で記入する形でアンケート調査を実施した。

平成20年6月13日 広島県広島市 防犯ボランティア 17件

平成20年6月26日	神奈川県 保育士	94件
平成20年7月15日	名古屋市 児童館職員	28件
平成20年7月30日	高知県 教職員・スクールガードリーダー	40件
平成20年8月18日	東京都市町村 保育者	49件
平成20年8月23日	全国 児童福祉施設 保育士	120件
平成20年10月2日	横浜市能見台 小学校PTA	56件
平成20年11月1日	京都府 防犯ボランティアリーダー	23件

・実施方法

行政等が主催する防犯講習会の参加者に、講義の後に記入してもらった

・有効回答件数 426件

・主な設問内容

- ・防犯活動をするにあたり、どんな情報が知りたいか。
- ・防犯活動をするにあたり、どんな課題や不安があるか。
- ・行政・警察・学校・保護者・子どもたちにどんなことを期待しているか

・結果は、多次元防犯指導支援システムにおける子ども犯罪WBSデータベースに反映予定

### ⑨PTA役員経験者を対象とした座談会（全2回）

・実施期間 第一回 平成20年11月14日 ・ 第二回 平成21年2月12日

・実施対象 PTA役員経験者

・座談会手法

「どういう人が、どういう時に、どういう情報がほしいか」という属性データを抽出することを目的としたWS形式を取り入れた。

・詳細

一般的な保護者の防犯意識等をWebアンケートにより調査する一方で、本座談会においては、PTA役員として学校側・地域の防犯ボランティアと現場で連携をとった経験のある方や、現役の小学生保護者でありながら防犯ボランティア団体のリーダーを務めている方などを対象とし、防犯における学校・地域・家庭の連携の現状および自主防犯ボランティア活動の将来像を探った。

「NPO法人 子どもの危険回避研究所」のメールマガジンの読者約2500人を対象に参加者を募集した結果、数名の希望者から連絡があり、その中で日程等を調整し、最終的には6名の参加となった。

第一回目の座談会では、子どもを取り巻く犯罪について、我が子だけでなく、日常的に周囲にいる小学生の子どもたちについても思いつくままにカードに書き出してもらい、それらを、時間軸（横軸）と子どもの年齢軸（縦軸）をとった模造紙に張り込んでみた。結果、子どもの年齢も時間も限定されないような事項が非常に多く、相対時間の軸と子どもの年齢軸では表現しにくいということがわかった。そこで改めてカードの内容を参加者全員で熟読し、その中からキーワードを抽出して再分類した結果、時間軸と子どもの年齢軸ではなく、以下のようなキーワードでカテゴリ分けすることができ、これらのキーワードは、多次元防犯指導支援システムに組み込むための属性データとして有用な資料となった。

■時間帯ごとの子どもの状況

- ・登校・校内・下校・帰宅時・帰宅後・留守番・習い事・学童・公園

■防犯対策の種類および主体

- ・子ども110番・地域パトロール・交番・情報配信・学校の意識
- ・保護者の意識・子どもの意識

第二回目の座談会では、各自に白紙を配り、自分を中心とした地域や学校の子どもに関わる様々な活動（防犯に特化せず）を図式化してもらった。その結果、地域における子どもを取り巻く活動に、どんな種類があるか、どのような人々が関わっているか、現状どのような問題点があるかなどが詳しくわかった。また、PTAと地域防犯ボランティアの関係だけでなく、子ども会や地元消防団、青少年健全育成連絡協議会等の団体との関わりについても、地域に特性があることがわかった。

⑩調査対象地域における説明会（全2回）

- ・足立区立西新井第一小学校西一安全ボランティア及びPTA対象 地域説明会  
平成21年2月17日 実施済み（参加者 約40名）

- ・広島市西区南観音学区社会福祉協議会役員対象 地域説明  
平成21年3月23日 実施済み（参加者 18名）

東京都足立区（西新井第一小学校）・港区（南山小学校）・広島県広島市西区（南観音小学校）の各校区で活動している防犯ボランティアの協力により、上記3地域を調査対象地域として正式に決定しており、そのうち、足立区と広島市西区においては、小学校の教室を借りた形で、地域の防犯活動実施者を対象とした「地域説明会」を実施した。

尚、港区立南山小学校においては、平成21年1月に校長先生・PTA会長・港区青少年対策六本木地区委員会会長（兼、六本木安全安心まちづくり協議会事務局長 兼、NPOみなと子どもサポーターズ代表理事）に協力の内諾をいただいた後、3月9日の南山小PTA役員会の席におけるプロジェクト概要説明は実施済みであり、地域の方々を対象とする地域説明会は平成21年度6月頃に実施予定である。

また、平成21年度中に、あと1地域（郡部を想定）を調査対象地域として追加する計画である。

⑪調査対象地域の自主防犯ボランティア対象の座談会（研修会準備会）（全2回）

- ・実施日および参加者属性と人数

第一回 平成21年3月23日

（広島市西区南観音学区社会福祉協議会役員18名）

第二回 平成21年3月26日

（足立区立西新井第一小学校 西一安全ボランティア6名）

- ・詳細

調査対象地域において、防犯関連のフィールドで動いているキャラクターを整理し、さらに地域特性を探るために、現在の子どもの防犯に関わる活動の状況や問題点などを具体的にお話していただいた。

### ⑫多次元防犯指導支援システムの潜在的ユーザと利用目的等の分析

G1 と協力して実施した防犯活動者や保護者との数回にわたるワークショップや座談会、ウェブアンケート等から情報収集を行い、多次元防犯指導支援システムの潜在的ユーザと利用目的等を分析した。

### ⑬多次元防犯指導支援システムのデータベースの設計

⑫の分析結果に基づいて、本システムが持つべき重要な検索事項を調査・整理した。そしてまず、子供の防犯に関わる事象をWBS (Work Breakdown Structure) の手法により構造化し、これを用いてデータベースの基本設計を行った。

### ⑭多次元防犯指導支援システムのデータベースにおけるサンプルデータ作成および各グループの意見調整の実施

⑬のデータベースにおける抽出条件を用いて、過去の新聞記事情報から、子供を対象とする犯罪に関するデータを抽出し、これをサンプルデータとしてデータベース化した。また、基準表等との連携をとるべく数回の意見調整を行うとともに、防犯関連の専門家および各グループの意見調整を円滑に進めるため「子ども犯罪記事WBSデータ入力・修正支援システム」を作成した。



### ⑮防犯関連支援システムの仮運用に向けた構築

「防犯リーダーの防犯指導力（及び防犯力）規準・基準表Ver.1」を組み込んだ防犯指導相談支援システム及び、研修の事前・事後にその効果を自己評価できる防犯指導効果調査Webシステムを、仮運用に向けて構築した。これらの連動により規準・基準表に沿った教材選びと、研修会における学習効果測定が可能となった。

#### ⑩警察署が情報発信する子どもの安全に関するWebページのデータベース化

警察署が情報発信する子どもの安全に関するWebページの差分調査を実施した。これにより、現在は手動で行っている更新確認作業をできるだけ自動化し、以前作成した検索システムと連動させる予定である。

#### ⑪紙媒体の防犯関係資料のデジタル化及びデータベース化

訪問調査時に収集した資料（テキストやパンフレットなど）、Web調査をして得られた資料などについて、スキャナやデジタルカメラなどを用いてデジタル化する作業及び、全国の教育委員会から提供された関連資料をPDF化し属性データを添付していきながらデータベース化する作業をおこなった。これらについては、規準表作成時の参考とするとともに、研修時の検索教材としての活用も可能なように今後も整理を進める。今年度デジタル化した資料のおもな項目と件数は次のとおり。

項目	件数
全国の教育委員会からの資料	51
論文・レポート	4
マニュアル	10
グッズ	7
ポスター	1
新聞・事例集	8
チラシ	18
パンフレット	11
ミニコミ誌	26
防犯関連雑誌の記事	23
その他書類	25
合計	184

#### ⑫子ども向け指導ツールのサンプルの作成

防犯リーダー育成カリキュラムにおいて、子どもへの指導手法を学ぶ際に有効ではないかと思われる、子ども向け指導ツールのサンプルの作成。

（子どもの危険回避研究所が提案している子ども向け指導ツールで、（財）社会安全研究財団が平成20年3月に発行した「子ども防犯教室の手引き&プログラム集」にも紹介されている「危険な場所って、どんな場所？（公園パネル：クマちゃん探し）」というアナログツールをデジタル化。防犯リーダー育成カリキュラムの中に指導法の事例として盛り込む予定。）

#### ⑬広報用パンフレットの制作

当該年度の成果報告を広報用パンフレットとして制作した。来期以降、関係各所に配布し、広報していく計画である。

(3) 研究開発結果・成果

次年度にスタートする調査対象地域におけるPDCAに向け、防犯リーダーの防犯指導力（及び防犯力）規準・基準表Ver.1を作成した。これを基に、研修会に必要なテキスト及び関連ビデオ教材（試作版）・防犯指導相談支援システム・防犯指導効果調査Webシステムを試行できるところまで準備が整い、当該年度においては、これらを用いたトライアウト研修会を実施した。

また、防犯活動者や保護者との数回にわたるワークショップや座談会、Webアンケート等によって情報を収集し、この結果に基づいて子どもの防犯に関わる事象の特性分析・構造化を行い、多次元防犯指導支援システムにおけるデータベースの基本設計とした。次年度以降はこれを改善し、完成度を高めていく予定である。

G3 防犯指導力育成プログラムの構築 指導力規準表・基準表

子どもの安全のための防犯リーダー指導力規準表・基準表Ver.0.3 2008年10月29日

領域		レベル	
大項目	中項目	コード	防犯指導リーダー (地域で指導できる)
			基準(具体的な内容)
防犯活動の意義と目的	防犯に関する施策の理解	11	①国や自治体の防犯対策や施策・事業についての現状を把握することができる ②国や自治体の防犯活動の具体的な内容を知っている
		12	①国や自治体の防犯活動について理解している ②地域連帯の防犯活動について理解している ③地域連帯の防犯活動の具体的な内容を知っている
	地域の特性と防犯対策	12	①国や自治体の防犯活動について理解している ②地域の特性や課題を把握している ③地域の特性や課題を把握している ④地域の特性や課題を把握している
		13	①国や自治体の防犯活動について理解している ②地域の特性や課題を把握している ③地域の特性や課題を把握している ④地域の特性や課題を把握している
	防犯活動の推進	13	①国や自治体の防犯活動について理解している ②地域の特性や課題を把握している ③地域の特性や課題を把握している ④地域の特性や課題を把握している
防犯活動のための環境の整備	14	①国や自治体の防犯活動について理解している ②地域の特性や課題を把握している ③地域の特性や課題を把握している ④地域の特性や課題を把握している	
防犯の種類と特徴	防犯の種類と特徴	21	①子どもが被害に遭った場合や、犯罪の被害に遭った場合や、犯罪の被害に遭った場合 ②子どもが被害に遭った場合や、犯罪の被害に遭った場合 ③子どもが被害に遭った場合や、犯罪の被害に遭った場合
		22	①子どもが被害に遭った場合や、犯罪の被害に遭った場合 ②子どもが被害に遭った場合や、犯罪の被害に遭った場合 ③子どもが被害に遭った場合や、犯罪の被害に遭った場合

G3 防犯指導力育成プログラムの構築 教材のための素材

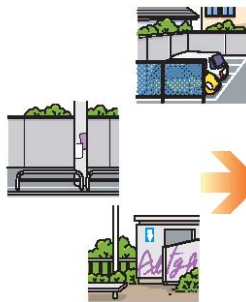
No.	タイトル	収録日時	収録場所	収録内容	収録日時	収録場所
1	防犯の心と防犯教育	2008年10月19日	防犯指導者研修会	子どもが被害に遭った場合や、犯罪の被害に遭った場合	2008年10月19日	防犯指導者研修会
2	学校の防犯教育	2008年10月19日	防犯指導者研修会	子どもが被害に遭った場合や、犯罪の被害に遭った場合	2008年10月19日	防犯指導者研修会
3	地域の防犯活動	2008年10月19日	防犯指導者研修会	子どもが被害に遭った場合や、犯罪の被害に遭った場合	2008年10月19日	防犯指導者研修会
4	防犯活動の推進	2008年10月19日	防犯指導者研修会	子どもが被害に遭った場合や、犯罪の被害に遭った場合	2008年10月19日	防犯指導者研修会
5	防犯活動のための環境の整備	2008年10月19日	防犯指導者研修会	子どもが被害に遭った場合や、犯罪の被害に遭った場合	2008年10月19日	防犯指導者研修会
6	防犯の種類と特徴	2008年10月19日	防犯指導者研修会	子どもが被害に遭った場合や、犯罪の被害に遭った場合	2008年10月19日	防犯指導者研修会
7	防犯の種類と特徴	2008年10月19日	防犯指導者研修会	子どもが被害に遭った場合や、犯罪の被害に遭った場合	2008年10月19日	防犯指導者研修会

防犯リーダーの防犯指導力（及び防犯力）育成のためのテキスト試作版（以下、サンプル）

**7** どこが安全？ どこが危険？

**犯罪が起きやすい場所**

犯罪が起きやすい場所は、不審者が入っても怪しまれない施設や建物で、子どもが一人きりになっても周囲の大人の目につかない死角になる場所です。また落書きや廃品が散乱しているような場所も危険です。子どもたちが犯罪に遭遇する割合が一番高い場所が駐車場や駐輪場です。近年では駐車場の防犯対策の必要性が叫ばれ、多くの駐車場では防犯カメラや照明が取り付けられています。しかし、子どもはできるだけ近づかないことが無難です。道路上の犯罪も増加しています。声かけに始まり、ひったくりや通り魔、連れ去りなどの多くの犯罪は道路上で発生しています。このように子どもの遊び場でも路上駐車や落書きの多い公園、木や建物が近く見通しの悪い公園は犯罪が起きやすいため注意が必要です。



**対応策**

- ①パトロールによる見守り活動
- ②地域清掃などでの環境改善
- ③安全マップ作成などを通しての子ども、保護者、地域での注意箇所の共通理解

地域で注意箇所の確認をしましょう

24

標準表(24a) 登下校時などの子ども安全に関する活動について説明でき、その効果と実施方法について指導できる。  
 ねらい  通学路やスクールゾーンの危険箇所のチェックができる。

7

**エレベーターや公衆トイレの危険性**

エレベーターや公衆トイレも犯罪の多い場所です。最近では日常的にエレベーターを使用する子どもも増えていて、エレベーターの中で子どもが被害に遭う犯罪の手法は、扉が閉まる直前にエレベーターに乗り込み、子どもの口をふさいで抱きつき、わいせつ行為をするというものが多く見られます。防犯のために、扉閉でも子どもだけでエレベーターに乗せることは避けた方がいいでしょう。やむを得ず子どもだけで乗せる場合には、乗り込む前に十分に周囲の安全を確認するようにして、知らない人と二人だけにならないように注意し、二人きりになったらすぐに降りるようにします。また万が一に備えて日頃から各階ボタンの近くに壁を背にして乗るような習慣をつけておくとよいでしょう。

またトイレは世界的にも犯罪の多い場所で、防犯のために公衆トイレを設置しない国もあるほどです。トイレは密室になりやすく、助けを求めにくい場所です。これまでも子どもが公衆トイレに連れ込まれて起こる犯罪が多く発生しています。保護者は必ずトイレへ一緒についていき、個室の前で待つようにします。また子どもだけでいる時には友だちと一緒にいき、決して一人で行かないような習慣をつけさせましょう。

**ビデオで調べよう** (関連ビデオ)   
 ※関連ビデオを見て理解を深めてみましょう。



**■つかんでおこう！**

多角的防犯指導支援システム  
 を利用し、自分の地域ではどのような場  
 所に注意すべきか確認してみましょう。

**危険な場所で被害にあったら**

日常生活のなかで、子どもたちは危険な場所を避けることができない状況におかれることもあります。仮にそこに近づいて、被害に遭ってしまった場合でも、子どもを責めず、話を聞いていかに聞いてあげるようにしましょう。

25

**15** 地域の組織づくりと活動の推進

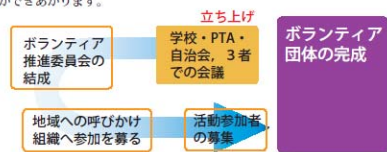
**協力して取り組もう！**

地域の防犯意識を高めるためには、学校・警察・地域がそれぞれの役割を果たして連携することが大切です。ボランティア組織の立ち上げから運営までその連携のあり方を見ていきましょう。

まず、地域防犯のボランティア組織を立ち上げます。いろいろな組織からの立ち上げがありますが、ここでは学校のPTAと自治体の呼びかけでボランティア組織が作られた場合を想定します。

学校に集まり、PTAと自治会の役員が集まって最初の話し合いを持ちます。その際、学校から校長、教頭、安全担当教員、生徒指導担当教員、学校評議員などの出席を求めます。どのような組織にするのか、それぞれの組織ごとの窓口を決めたり、どのような活動を行うのか話し合ったりして大まかな枠組みを決めます。次に、警察や地元企業、近隣の中学・高校・大学、教育委員会、公民館、市町村の安全担当者など地域の組織に呼びかけるとともに、地域住民（自治会、商店会、老人会など）にも呼びかけて防犯ボランティア組織への参加を募り、推進委員会を結成します。

地域防犯ボランティアの推進委員会が立ち上がったら、役員を決め、事務局も設置します。この推進委員会が活動の運営を担っていくことになります。そしてこの推進委員会を中心となって地域の組織や住民にボランティアの参加を募り、ボランティア組織ができあがります。



結成には関係機関との協力が重要！

40

標準表(45a) 地域の関係機関と連携し、自主防犯組織の結成および自主防犯活動の活性化を支援することができる。  
 ねらい  防犯活動を行う際に地域に呼びかけ、協力を得ることができる。

15

**役割を決めよう！**

ボランティア組織では規模や活動内容に応じて班分けを行い、チームリーダーを決めて実際の防犯活動に取り組みます。この際、警察の生活安全課にアドバイスを求める必要があります。警察からは防犯活動に関するアドバイス、のぼりや腕章、赤色ライトなどの備品の貸与を受けたりできる場合もあります。また、防犯に関する様々な助成や他地域での取り組みなどの情報も得られるかもしれません。このようなボランティアの活動では日頃の活動で得られた情報を学校や警察と共有し、地域ぐるみで防犯活動を行うことが大切です。

**ビデオで調べよう** (関連ビデオ)   
 ※オハイオ隊(熊本)のビデオを見て組織づくりのポイントについてまとめてみましょう。

**活動の資金は？**

自主防犯ボランティア団体を結成する際には活動に必要な様々な備品を揃える必要があります。こうした活動に対しては助成を行っている市町村もあるのですが、自分の住む地域ではどのような状況になっているか調べてみるとよいでしょう。



**シンボルを決めよう**

結成した団体にシンボルを掲げる「地顔にちなんだ名称か「キャラクター」を付けることで地域に活動が根付きやすくなるでしょう。その際には地域の広報紙などで募集してみるのもよいでしょう。

41

防犯リーダー指導力規準・基準表を組み込んだ防犯指導相談支援システム

## G4 防犯関連支援システムの構築 防犯指導相談支援システム

### ■ 防犯リーダーの防犯力基準表を実装



防犯指導相談支援システムデモ

研修の事前、事後にその効果を自己評価できる防犯指導効果調査Webシステム

## G4 防犯関連支援システムの構築 防犯指導効果調査Webシステム

- 自己採点による事前評価ができ、個人の課題も明らかになる。
- 学習後、事前評価と同様に自己採点により、事後の評価が表示される。
- 個人の事前事後評価はもちろん、各コミュニティ(地域や団体)毎に管理できるようになっており、コミュニティメンバー全体の平均点も表示されるため、コミュニティの平均点と個人の点数を比較した評価もできる。

事前評価結果グラフ

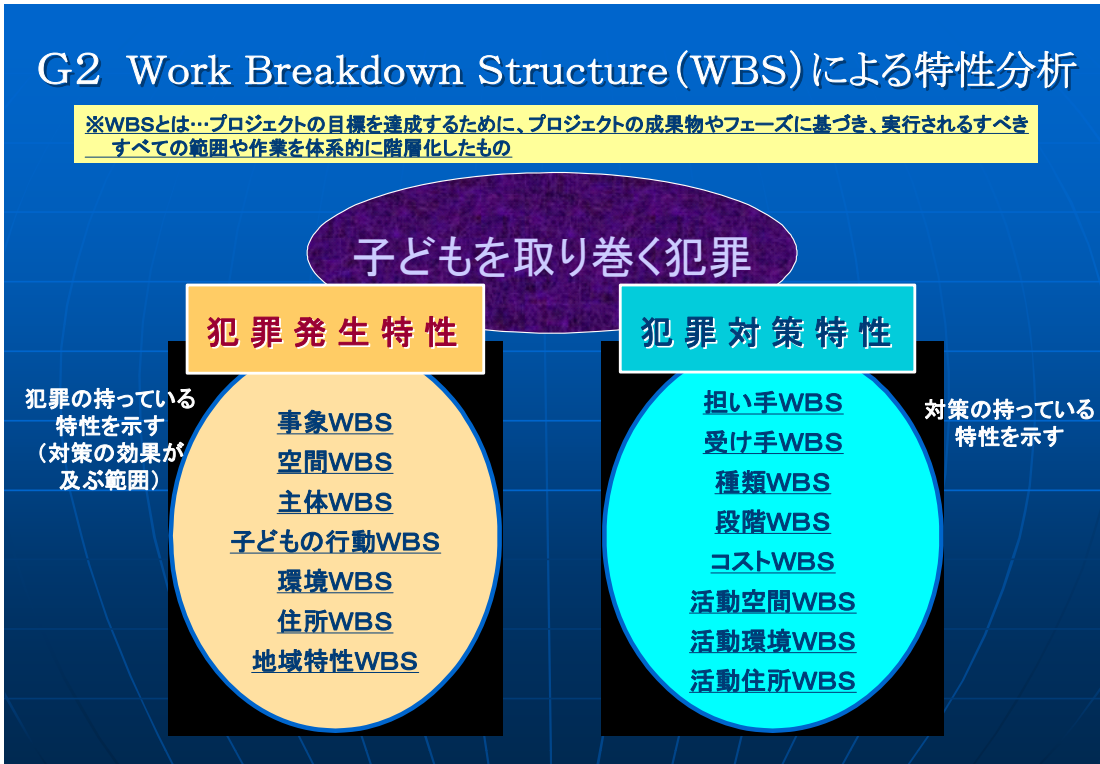
事後評価結果グラフ

■ あなたの回答結果 □ 平均点

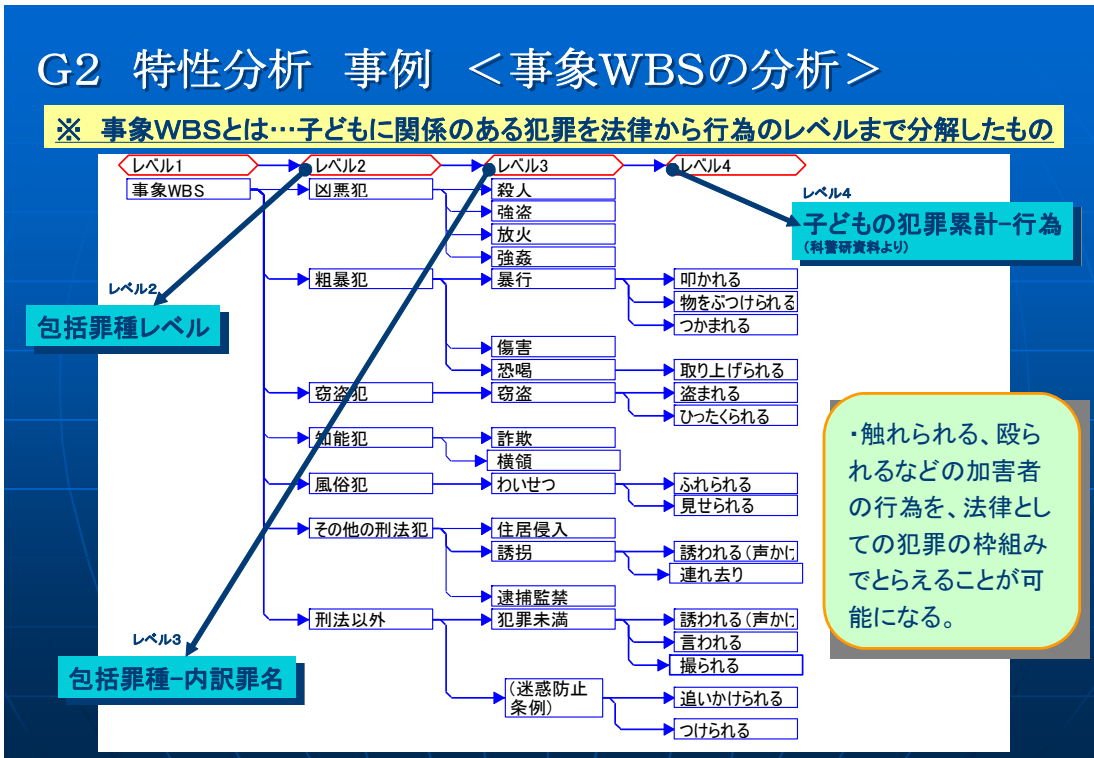
アイコン 説明

- 未確認
- 確認済み
- 未評価
- 評価済
- 事前評価で平均点以下だった課題

座談会等の情報収集結果に基づいた子供の防犯に関わる事象の特性分析・構造化



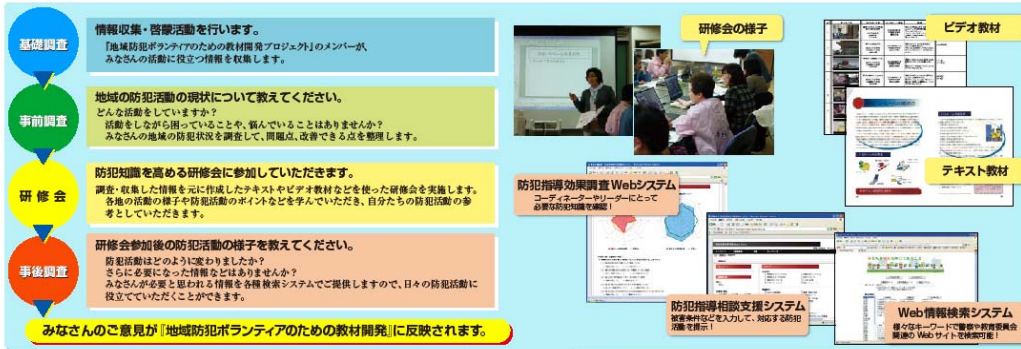
子供の防犯に関わる事象の特性分析例



坂元PJ広報用パンフレット制作

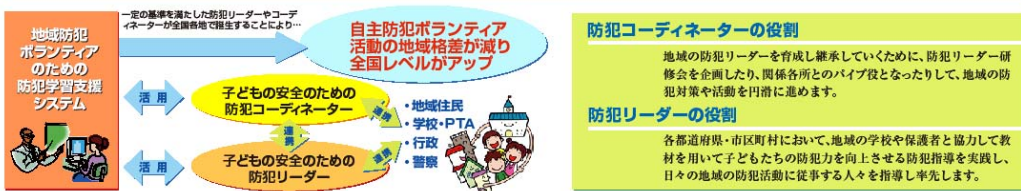
**防犯ボランティア活動をレベルアップするための教材を、いっしょにつくりましょう!**

【地域防犯ボランティアのための教材開発プロジェクト】は、みなさんのお力をお借りしながら、子どもを守る防犯リーダー、防犯コーディネーター育成のための教材開発事業を推進します。



**いっしょに教材開発に携わっていただくことで、地域の防犯力アップも期待できます!**

『地域防犯ボランティアのための防犯学習支援システム』が完成すれば、社会はこんな風になります。



(4) 開催したワークショップ、シンポジウム、会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
20.4.15	第1回研究開発リーダー会議	JAPET 会議室	年次研究開発に向けて、各グループの研究計画及び予算計画説明
20.5.9	G1/G3 合同会議	目白大学 教育研究所	昨年収集されたデータ、今後収集すべきデータについて、サーバについて、調査対象地域について
20.5.20	第2回研究開発リーダー会議	JAPET 会議室	今後の各Gの方針と研究開発スケジュール・研究の進め方及び、各グループの連携について
20.6.6	G1/G2/G4 合同会議	園田学園女子 大学	指導効果調査Webシステムについて、広島訪問の事前準備について、山口県教育庁における聞き取り調査結果報告、PDF資料の属性データについて
20.6.6	藤田PJとの情報 交換会議	大阪レンタル 会議室	藤田PJとの情報交換
20.6.7	G3/G4 合同会議	京都アスニー	カリキュラムの作成について 4地域について 事前事後調査について まちと子どもたちの一日関連 Web利用について
20.7.1	G2 WS	東京大学生産 技術研究所	子どもの潜在的危険要因とその解決策の抽出
20.7.2	G2 WS	東京大学生産 技術研究所	前日のまとめ
20.7.15	第3回研究開発リーダー会議	JAPET 会議室	各グループの進捗状況報告
20.7.30	G3/G4 合同会議	目白大学	e-learningおよび、高齢者に向けた研修会の方法について
20.8.4~8.5	G1/G3 WS	目白大学	規準・基準表WS
20.8.23~8.24	第1回 プロジェクト 内部研修会	宿泊研修施設 クロスウェーブ 東中野	各グループの進捗状況報告、防犯リーダー・防犯コーディネータの定義の明確化、効果測定のための目的・手法についての検討、下半期の研究開発スケジュールについて確認
20.9.26	第4回研究開発リーダー会議	JAPET 会議室	各グループの進捗状況報告
20.10.28	G2 WS	東京大学生産 技術研究所	事象WBSと空間WBSの検討と製作における課題の抽出

20.10.29	第5回研究開発リーダー会議	JAPET 会議室	各グループの進捗状況報告 山口大学 大学院技術経営研究科 機能材料工学科 大島直樹 准教授によるプレゼンテーション RISTEX サイトビジット
20.11.20	PJメンバー会合	名古屋TCフォーラム	WBS分析システムと基準表との整合性検討
20.12.5	第6回研究開発リーダー会議	JAPET 会議室	各グループの進捗状況報告
20.12.22	G2 WS	東京大学生産技術研究所	子どもを取り巻く犯罪の現状再認識とWBSの見直し
21.1.8	第7回研究開発リーダー会議	JAPET 会議室	各グループの進捗状況報告 RISTEXシンポジウムへの提案についての検討
21.1.22	第8回研究開発リーダー会議	JAPET 会議室	各グループの進捗状況報告 RISTEX サイトビジット
21.1.28	G1/G4 合同会議	JAPET 会議室	防犯指導効果調査Webシステムについて
21.2.3	第9回研究開発リーダー会議	JAPET 会議室	各グループの進捗状況報告
21.2.4	G3/G4合同会議	目白大学	防犯指導効果調査Webシステムについて
21.2.10	第2回プロジェクト内部研修会	JAPET 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際のフィールドにおける、各システムの運用の具体的計画</li> <li>・犯罪学及び犯罪心理学の知見による総論的講義（東京未来大学 出口教授）</li> <li>・今年度の成果に向けた3月までの研究開発スケジュールについて</li> <li>・ポスターセッション用プレゼンテーションツールについて</li> </ul>
21.2.26	第10回研究開発リーダー会議	JAPET 会議室	各グループの進捗状況報告 ポスターセッション用プレゼンテーションツールについて
21.3.31	G1/G2 合同会議	JAPET 会議室	各グループの進捗状況報告 H21年度計画書について

(5) 研究開発実施におけるその他の活動

G1（基礎調査グループ）ではNPO法人 子どもの危険回避研究所 WEB サイト内で、犯罪からの子どもの安全に関連するキーワードを毎週1つ設定し、そのキーワードについての説明がわかるリンク集を掲載した。本プロジェクト内における情報共有を目的とすると同時に、一般にとっても有意義なページであると考え、子どもの危険回避研究所のコンテンツとして一般公開した。このページをもって、本プロジェクトを広く啓蒙することができた。

[http://www.kiken-kaihi.org/child\\_safety\\_pj/keyword\\_index.html](http://www.kiken-kaihi.org/child_safety_pj/keyword_index.html)

実施期間 平成20年6月30日～平成21年3月2日

キーワード一覧（全30回）

- ・子ども110番の家
- ・パトロール
- ・スクールガードリーダー
- ・スクールサポーター
- ・不審者
- ・民生児童委員
- ・防犯アドバイザー
- ・防犯灯
- ・防犯設備士
- ・地域安全安心ステーション
- ・防犯優良マンション認定制度
- ・優良防犯ブザー推奨制度
- ・放課後子ども教室推進事業 安全管理員
- ・刑法犯認知件数
- ・防犯情報配信システム
- ・地域児童見守りシステム
- ・地域防犯の啓発
- ・安全・安心まちづくり・1
- ・安全・安心まちづくり・2
- ・少年警察ボランティア
- ・ネット指導員
- ・保護司
- ・大学生による防犯ボランティア
- ・セーフコミュニティ
- ・交番相談員
- ・学校警察連絡協議会
- ・自主防犯ボランティア
- ・防犯リーダー・1
- ・防犯リーダー・2
- ・地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業

4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

京都市立藤城小学校におけるトライアウト研修会の実施

- ・日時：3月21日（土）11:00-16:00
- ・場所：京都市立藤城小学校「ふれあいサロン」および「コンピューター室」
- ・対象者：京都市立藤城小学校運営協議会メンバー 13名  
（他、講師・オブザーバー・プロジェクトメンバーなど15名）
- ・内容：試作版テキストを用いた研修と評価
  - ・テキストの内容や構成の妥当性
  - ・ビデオ教材の内容の検討、提示法
  - ・研修の進め方の検討
  - ・コンピューターを用いたチェック方法の検討 など

## 5. 研究開発実施体制

### (1) 研究代表者＋基礎調査のグループ (G1)

①リーダー：(社)日本教育工学振興会 会長 坂元 昂

#### ②実施項目

##### 総括業務

- ・プロジェクト全体の研究開発内容のとりまとめ、指示、研究開発進行管理
- ・全体リーダー研修の開催
- ・坂元PJ広報用パンフレット制作 (H20年度報告書として)

##### 地域折衝

- ・東京都足立区・港区・広島県広島市西区における地域折衝
- ・足立区・広島市西区における地域説明会の実施

##### 情報収集及び調査

- ・関連資料のPDF化 (文字認識化作業を含む) と、属性データの抽出 (74件)
- ・「子どもを取り巻く危険」に関するWebアンケート調査の実施
- ・「地域で危険を感じる」に関するWebアンケート調査の実施
- ・防犯関連活動従事者へのアンケート調査の実施
- ・PTA役員経験者を対象とした座談会の実施 (全2回)
- ・調査対象地域における防犯関連活動従事者を対象とした座談会の実施 (全2回)
- ・NPO法人地域交流センターを視察、理事・研究員：橋本氏に対する取材
- ・静岡県県民部くらし交通安全室「防犯まちづくりポータルサイト」取材
- ・子どもの防犯に関連する書籍・冊子・DVD・CD-ROM等々の資料収集

### (2) 多次元防犯指導支援システム構築グループ (G2)

①リーダー：東京大学生産技術研究所 教授 目黒公郎

#### ②実施項目

- ・多次元防犯指導支援システムの潜在的ユーザと利用目的等の分析
- ・多次元防犯指導支援システムのデータベースの設計
- ・多次元防犯指導支援システムのデータベースにおけるサンプルデータ作成  
および各グループの意見調整の実施

### (3) 防犯指導力育成プログラム構築グループ (G3)

①リーダー：目白大学社会学部 教授 原 克彦

#### ②実施項目

- ・防犯活動等の訪問調査の実施 (17件)
- ・訪問調査等でのインタビュー調査の実施 (17件)
- ・訪問調査・Web調査等の資料のデジタル化 (デジタル資料数110)
- ・研修用インタビュービデオの整理 (50本)
- ・防犯リーダーの防犯指導力 (及び防犯力) 規準・基準表Ver.1の作成
- ・防犯リーダーの防犯指導力 (及び防犯力) 育成のための研修用教材の開発  
(試作版テキスト17項目・研修用サンプルビデオ5本の制作)

(4) 防犯関連支援システム構築グループ (G4)

①リーダー：園田学園女子大学未来デザイン学部 准教授 堀田博史

②実施項目

- ・防犯に関する県警・府警のwebサイトと発信内容の継続調査
- ・市販書籍やDVDの調査
- ・全国の教育委員会等による関連資料のデータベース化
- ・防犯リーダーの防犯指導力（及び防犯力）規準・基準表Ver.1の作成支援
- ・防犯指導相談支援システムの設計
- ・防犯指導効果調査Webシステムの設計及び試行

6. 研究開発実施者

①研究代表者のグループ（+基礎調査：子どもの危険回避研究所） (G1)

氏名	所属	役職
坂元 昂	(社)日本教育工学振興会	会長
横矢 真理	NPO法人 子どもの危険回避研究所	所長
森田 和夫	(社)日本教育工学振興会	事務局長
増田 迪博	(社)日本教育工学振興会	調査部長
西江 麻由美	(社)日本教育工学振興会	リサーチアシスタント研究員

②多角的防犯指導支援システム構築グループ (G2)

氏名	所属	役職
目黒 公郎	東京大学生産技術研究所	教授
近藤 伸也	人と防災未来センター	主任研究員
大原 美保	東京大学生産技術研究所	准教授
阿部 真理子	東京大学生産技術研究所	大学院
高橋 美奈	東京大学生産技術研究所	研究補助員
石原 繭子	東京大学生産技術研究所	研究補助員
廣田 るり子	東京大学生産技術研究所	研究補助員
石川 恵美	東京大学生産技術研究所	研究補助員

③防犯指導力育成プログラム構築グループ (G3)

氏名	所属	役職
原 克彦	目白大学 社会学部	教授

宇田川 香織	目白大学 教育研究所	助手
尚和 慧	目白大学 卒業生	研究補助員

④防犯関連支援システム構築グループ (G4)

氏名	所属	役職
堀田 博史	園田学園女子大学 未来デザイン学部	教授
稲熊 孝直	園田学園女子大学 短期大学部	助教
佐藤 弘毅	名古屋大学 留学生センター	講師
内橋 美佳	園田学園女子大学 国際文化学部	助手
片岡 弘会	園田学園女子大学 卒業生	研究補助員

7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 論文発表

(国内誌\_\_0件、国際誌\_\_0件)

(2) 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

①招待講演 (国内会議\_\_0件、国際会議\_\_0件)

②口頭講演 (国内会議\_\_2件、国際会議\_\_0件)

・発表者：堀田博史 (園田学園女子大学)

タイトル：警察署が情報発信する子どもの安全に関するWeb ページの調査

学会名：日本教育工学会研究会

場所：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属教育実践支援センター

月日：H20.7.5

・発表者：稲熊孝直 (園田学園女子大学)

タイトル：警察署が情報発信する子どもの安全に関する Web ページの

差分情報を含んだ検索システムの構築

学会名：教育システム情報学会

場所：和歌山大学

月日：H20.11.14

③ポスター発表 (国内会議\_\_0件、国際会議\_\_0件)

(3) 新聞報道・投稿、受賞

特になし

- (4) その他の発表・発信状況、アウトリーチ活動など  
特になし